



東北復興 PSW にゆうす

山形県沖を震源とした、新潟県・山形県の地震に際しまして、心からお見舞いを申し上げます。津波のニュースもありましたので、とても心配しておりました。さて今号は、3月に行われた復興支“縁”ツアーで出会った高野病院（福島県広野町）のPSW 水野さんのインタビューと、8月30日（金）、31日（土）名古屋国際会議場で行われる全国大会・学術集会での被災地障害者作業所等製品販売事業の事業所と商品をご紹介します。

今回は、復興支縁ツアーin ふくしまで訪問させていただいた、高野病院の精神保健福祉士 水野敬貴さんにお話をうかがいました。



Q1. 水野さんの高野病院ご勤務の経緯を教えてください。

私は震災当時より群馬県におり、被災した故郷が気になりつつも、仕事に充実感もあり、帰郷することは考えておりませんでした。県外や海外の方まで復興の為に尽力している中、何もしていないことに自責の念を抱え、そのことがかえって戻ることを踏みとどめていたようにも感じます。

震災から5年が経つ頃、父より電話があり「病院の求人が出ていたから電話をしておいた。一度連絡してみてください。」という実に付度のなされた事後報告を受けました。

当時の事務長（現理事長）に直接電話をしたらしく、恥ずかしさを感じながらも事務長に直接見学・面接を行っていただきました。その時いただいた『高野病院奮闘記』を読み、震災、原発事故の恐怖と混乱の渦中でも、命を守ることに尽力した病院の存在を知りました。「自分にもできることがある」「まだやらなくてはいけないことがある」と感じ、幸いにも採用していただけたので、彼の地を離れ、現在に至っております。

Q2. 現在の高野病院のご様子や水野さんのご活動など、教えてください。

震災以降、社会資源が乏しく高齢化も進んでいる広野町ですが、隣接するいわき市の介護サービス事業所や相談支援事業所からの協力を得られる分、檜葉町以北の地域に比べればまだ地域生活が望みやすいのではないかと思います。しかし、高齢独居の世帯数は100を超えており、対して保健師や民生委員などの数は乏しく、臨界点であることは間違いありません。また、広野町以外の地域からも当院へお越しいただく患者様は多く、尚厳しい地域環境の方もいらっしゃいます。そんな中、当院では昨年1月11日に訪問看護ステーション『たかの』を開設いたしました。精神科訪問看護にも対応しているスタッフが、近隣地域にお住まいの患者様の在宅生活を支えるべく日々業務に取り組んでおります。同年11月1日からは、進む高齢化に比例し、増加する認知症の方とその家族を支えるべく、精神科を一般病棟から認知症治療病棟へと転換いたしました。それに伴い、一般病棟の入院患者様23名の退院調整を行いました。中には原発事故の影響で帰る場所を失った方や、ご家族様と絶縁状態の方もいらっしゃいました。しかし、家族や行政機関と連携し、他医療機関の相談員にもご協力いただきながら、避難されている家族様のお家やグループホーム、転院したり中古物件を購入したりと様々な方法で地域生活へと移行することができました。

更に今年2月からは訪問診療も開始し、通院が困難な患者様にも医療の手が入りやすいよう、より密接に地域と関わりながら地域医療に尽力しております。相談員ではありますが、私も初回訪問や担当者会議に同行し、ケアマネジャーやご家族の窓口業務も行わせていただいております。

Q3. 最後に、メッセージをお願いいたします！

当院は緑豊かで海を臨む風光明媚な場所に位置しており、患者様に大変好評です。

資源や人手にはめぐまれてはおりませんが、職員同士助け合い、高野前院長の「できることを粛々と」の精神でこれからも故郷で生活される方の力になれるよう努めていきたいと思っております。

様々な地域からPSWの皆様にお越しいただき、温かいお言葉や励ましを貰い、とても胸が熱くなりました。「来て、見て、知って」いただくだけでこれほど勇気づけられる、支えられるものなのだと思えることができました。今回このような貴重な場を提供して下さった皆様、そして日々業務にご尽力されている皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。

★販売協力員（ボランティア）募集について★

2013年度石川大会の様子(初回)

販売事業にご協力いただける本協会構成員を募集しております！

第55回全国大会・第18回学術集会（愛知大会）の会場、岩手・宮城・福島の事業所からの製品を、一緒に販売してみませんか？

☆2019年7月31日が締め切りとなっております。

☆応募方法など詳細は裏面の東日本大震災復興支援サイトからご覧ください！



第55回全国大会・第18回学術集会(愛知大会)でお会いしましょう!

まだまだ必要な支援がある。あなたがいることを「忘れない」という支援、あの時を「覚えている」という支援が・・・。

<被災地障害者作業所等製品販売事業>事業所、商品紹介

コーヒータイム(福島県)

日本精神保健福祉士協会の皆様には、東日本大震災及び東京電力福島第一発電所の事故以来多大なるご支援をいただき、感謝申し上げます。

原発事故で被災した事業所の製品を毎年、全国大会の会場で販売していただき、ほぼ完売が続いています。このことは私たちにとってはとても大きな励みになっております。



さおり織り

朋友館(岩手県)

被災地障害者作業所等製品販売事業には、2016年度より継続して参加させていただいておりますことに、深く感謝申し上げます。「どん菓子」は、地域では馴染み深い、昔懐かしい素朴な味のお菓子です。米やくるみ、アーモンドにいろいろな味付けをし、ティータイムやお酒のお供にもピッタリな商品です。皆様に是非とも食べていただきたい自慢の一品です。



どん菓子

工房地球村(宮城県)

元気に復興する姿で、恩返しをしたいです! 地元の特産品であるイチゴやリンゴのおいしさを全国の皆様へ! 地球村では、山元町の良さをPRしながら、利用者さんが心を込めて1個1個手作りしております。お楽しみください。



きらら女川(宮城県)

就労継続支援B型事業所きらら女川です。2011年3・11の大震災の日、津波は私たちの大事な仲間や作業所までも飲み込んでしまいました。失ったものは計り知れませんが、同時に全国の皆様からの温かいご支援もいただき、仕事のあるありがたみを感じ、新しい作業所で毎日元気に頑張っています。



当日は、今回紹介した他に数多くの事業所、商品を準備する予定です。是非お立ち寄りください!!

【ご意見・ご感想をお寄せください】

仮設住宅の取り壊しが始まり、跡地にはクローバーが一面咲き誇っている空き地。一方、物音の少なくなった仮設住宅で、引っ越しの日を1人待つ方。意思の伝えにくいご本人の支援。福祉職の物の見方は、時として優しく、時として厳しく、地域の関係者、支援者を導いてきたように思います。

東日本大震災復興支援委員会では、構成員はもとより、3県の事業所や地域の皆様との交流を大事にしております。ぜひ、それぞれのお立場からの声をお聞かせください。お寄せいただいたメッセージは、本紙面や本協会ウェブサイトにてご紹介させていただきます。投稿方法はFAXもしくはE-mail(office@japsw.or.jp)にてお願いいたします。

★題名に「PSWにゆうすについて」とご記入ください★

編集後記

仮設住宅に住んでいる方の引っ越しを待つ日々です。本人の意思が分かりにくい方。ここまで来るのに、何度ケース会議を開いたことでしょうか。引っ越しもどうなることか…。帰った後の暮らしは…。震災9年目。(伏見)

第41号 2019年7月15日発行

編集：東日本大震災復興支援委員会

発行：公益社団法人日本精神保健福祉士協会

〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3 四谷オーキッドビル7F TEL. 03-5366-3152 FAX. 03-5366-2993

★URL：<http://www.japsw.or.jp/>

★東日本大震災復興支援サイト <http://www.japsw.or.jp/ugoki/f-jyoho.html>